

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	お酒を楽しむ会開催事業			事業コード	1712
所属コード	132000	課等名	観光課	係名	
課長名	村山 悦男	担当者名	村上 麻衣子	内線番号	3750
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産	コード	4
	基本事業	魅力あふれる物産の振興	コード	3
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 2 目 物産振興事務(010 - 01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰越 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 15 年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

盛岡地域(盛岡税務署管内)の酒造メーカーで生産される酒類の生産地域の同一性などの特徴を活かしたお酒の宣伝及び需要拡大を目指し、年 1 回「盛岡お酒を楽しむ会」を開催する。また、参加メーカーを紹介するパンフレットを作成し、酒どころ盛岡のイメージアップを図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

市内ホテルの独自事業として開催していた事業を盛岡地域全体の酒類製造メーカーの PR の場として活用するため、関係者等に参加を呼びかけ、実行委員会を設置し、広域的に開催している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

年々口コミでの参加者が増加し定着化しつつある。より酒どころ盛岡を広く PR し、酒類の消費拡大をはかりたい。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

酒造メーカー, 市民(成人)

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 酒造メーカー	社	12	13	13		
B 市民	万人	30	30	30		
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

盛岡お酒を楽しむ会開催, 酒ロードマップの作成

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 参加者	人	376	320	300		
B 参加酒造メーカー	社	12	13	13		
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

盛岡お酒を楽しむ会の満足度を上げる。

盛岡地域の酒類の生産量を増やす。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 参加者アンケート結果 満足度	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	92	95	95		
B 盛岡税務署管内製成数量	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	kl	3450	3450	3500		
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	0	0
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	0	0	0	0
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	240	240	240	240
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	960	960	960	960
計	トータルコスト A+B	千円	960	960	960	960
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

施策体系に結びついている。イベントを通じ地元で生成される酒類への興味関心を高めることにより、需要が高まり特産品として育成される。

② 市の関与の妥当性

業者同士の利害関係を超えて、盛岡（広域）の特産品の販路拡大を進める上で、市が関わることは意義がある。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。酒造メーカー数は限定されている。また、イベント参加者についても盛岡広域が大半であるため現状で妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。零細な酒造会社にとっては独自でこのようなイベントを開催するのは困難であるが、このイベントは酒造会社が一同に会し 300 人を越す参加者に自社製品を紹介することが可能であり、各メーカーの知名度の向上、販路拡大に大きく寄与しているため。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

参加メーカーのメリットを増やす。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

参加者全体が、すべての酒造会社のブースに参加できるため、受益機会は公平である。

(4) 効率性評価

現在の事業費は当日の料理代金、参加酒造メーカーの出展補助金（メーカー全体に参加者一人あたり 500 円）がほとんどで、これ以上の削減は困難である。

また、人件費においても、現在必要最低限の人員配置でおこなっているため、削減は困難である。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

各メーカーが新酒または研究酒を披露する場にする。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

参加メーカーが新商品提案意欲を持つように酒造業界の盛り上がりの場となるように持っていく。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

イベントへの参加者も固定化の方向にあり、定着してきていると思われることから酒造会社やホテルの主権に向けて取り組む必要がある。